

保険医療材料専門部会

＜画像診断関係参考資料＞

平成17年11月18日

(社)日本画像医療システム工業会
会長 桂田 昌生

画像診断領域における重要論点(継続)

1. 保守維持管理諸費用の明文化

産業ビジョンでの命題である、医療の安全性、機器のライフサイクルコストの明確化は重要である。薬事法上での特定保守管理医療機器としての要件化を踏まえ、さらには医療法上の規制のあり方を議論し、診療報酬上での扱いを議論すべき。

従来より指摘されているように、所定点数に含まれるとの発言の明文化を即刻すべき。

2. 積算根拠の明確化

企業として技術革新の方向性と期待収益を見定める上でも適切な積算根拠の明確化が必要。

診断機能、精度についての評価を「臨床適応ニーズ」「臨床能力」「その技術の運用要件」「社会的QOL」「運用コスト必要資源」「医療経済学的分析」をもとに、総合的な評価体系のガイドラインについて論議をすべき。

3. アプリケーションソフトウェアの評価

高度なアプリケーションソフトウェアが提供する医療情報に対する適正評価をお願いしたい。

診療報酬改定に向けての意見書提出の経緯

- 「平成18年度診療報酬改定に関する業界要望」
【画医工発総第16-108号】
平成17年02月21日
- 「画像診断装置の性能による評価に関する論点メモ」
平成17年03月01日
- 「画像診断装置の価値評価への新たな評価手法導入について」
【画医工総発第17-45号】
平成17年08月10日
- 「画像診断領域におけるIT化の評価について」
【画医工総発第17-44号】
平成17年08月10日
- 「特定保険医療材料(フィルム)に係わる機能区分評価について」
【画医工発企調第17-44号】
平成17年10月21日